



カロリナ・プリスコバ選手ポストマッチインタビュー

Q. 今の試合を振り返ってひとこといただけますでしょうか？

A. まず私自身は、とても良い試合が出来たと思っています。サービスゲームをキープできたのがこの試合の鍵だったと思います。大坂選手も素晴らしいサーブを繰り出して非常に力強さを見せていました。やはりパワーのある選手だと感じました。ただ、私も大きなチャンスを迎えたところでした。ポイントを取れたと思います。決していちばんいい試合だったとは言いきれなかったと思いますが、やはり勝利できたことはとても嬉しく思っています。たくさんのタフな試合をこなした中で、最後勝利を得たということは大きいです。ただ、ここまで簡単には来られなかったな、という印象も持っています。

Q. まずおめでとうございます。そして、きのうはこの大会で非常に長く試合をしているというお話でした。今日の決勝の前は、すべて3セットに達していましたが、そういった中で今日の決勝に向けて特に作戦を練ったこと、最初から飛ばしていこうなど、どのようなことを思って試合に臨んだのでしょうか。

A. そういったことは事前にプランできるわけではありませんが、もちろん私としては、出来る限り2セットで終わらせたいという気持ちは持っていました。ここまで非常に接戦が続いてきて、序盤有利に運んでいながらも追いつかれ、そして最後にしっかり締めくくることができずに3セットに延びてしまったという展開が多かったです。

決勝がいちばん厳しい試合になるというケースもありますし、あるいは逆に決勝にたどり着くまで一生懸命戦ってきて、最後意外と終わりが簡単だったというケースもあるかと思います。

今日の試合のなかでは、大坂選手も非常に疲れていたのではないかというのを少し感じました。そして私は自分のサービスが非常に良かったので、それが今日の試合を分けたのではと思っています。

今日この試合を2セットで終えることができたというのが私自身にとっては次の大会に向けて体力を回復する意味でも非常に重要だと思っていますので、こういった形は必要だったと思いますし、これまでの試合の中でどんどん自信が深まってきているのを感じています。

ここまでの試合はすべて非常に厳しい試合、そしてタフな相手との戦いが続き、そのなかで勝利を収めてきました。そういった意味で私は非常に良いメンタリティを保っているのではないかと思いますし、それが全ての試合で出せているということが非常に良いと思っています。なので、この状態が続いてこの後の大会にも持ちこめればと思っています。

Q. おめでとうございます。今日非常に我慢強くプレイしていたように見受けられました。そして、大坂選手にミスをさせるという場面が見られましたけれども、それはある意味作戦だったのでしょうか、あるいは、試合の中で大坂選手が疲れているなというのを感じて、そこから何か変えていったところがありますか。

A. ややそういったプランは立ててはいました。ただ私のプランとしてはまず何よりも力で負けないようにということを意識しすぎないことを考えました。

やはり非常にパワーがあふれる選手、私よりもたぶんパワーとしては上回っている選手だと思いましたが、そこで無理にパワーで対抗しようということはず我慢強く、そして自分なりにいいショットが打てるチャンスをうかがっていくということを心がけました。

運よく私自身サービスが良かったですし、またストロークでも彼女のバックハンド側を狙って打つことが出来て、過去対戦した中で彼女がどういったテニスをするかというのも分かっていたので、そういったことを踏まえたうえでのプランを持って臨み、そういうふうな形としては出てきました。また、大坂選手がミスをしている場面が合ったので、私自身何かを変えるという必要はなかったです。

過去にはもっともっとアグレッシブなタイプの選手と当たったこともありますし、その選手たちに対して自分自身もサービスをアグレッシブにいくという対処は出来ていたもので、それを変えるということはありませんでした。

もちろん、大坂選手が相手でしたので簡単な試合にはならないと思っていましたがけれども、私のところに回ってきた数少ないチャンスをうまくものに出たかと思っています。

Q 大坂選手のサービスはいつもスピーディーでパワフルだということでしたけれども、今日はこれまでの印象に比べてさっき疲れが認められたということでした。彼女の疲れはサービスにも表れていましたか。

A 少しそういうのはあったかと思えます。

少しスピードが落ちているかなというのは思いましたが、それでも大坂選手は非常にサービスがよく、また様々なタイプのサービスを送り出してきて、コーナーに決めていました。

彼女のサービスのプレイacementというのやはり優れていますし、もちろん200キロのサーブを持ってはいますけれども、必ずしもそれが必要ではないということもあり、180キロもコーナーに決められれば受ける側としてはほぼチャンスがなくなってしまうということもあります。

今日はややスピードが落ちたかなというのを感じたところはありませんでしたが、ただ私自身が彼女のサービスゲームでそれほどのポイントを挙げられていませんでしたので、むしろ彼女の方がダブルフォルトをしたり簡単なショットをミスしたりということもあったと思います。

それでもいつもと変わらぬいいサーブをしているなという風には感じていました。